

「サイエンスを基盤とした母乳育児の展開をめざして」

昭和大学医学部小児科学講座 教授

板橋 家頭夫

第 27 回母乳哺育学会学術集会を本年 9 月 8 日（土）、9 月 9 日（日）に昭和大学上條講堂において開催させていただきます。今回の学術集会は、メインテーマを「サイエンスを基盤とした母乳育児の展開をめざして」といたしました。母乳育児の重要性は論を待ちませんが、その科学的背景を理解しておくことが、これを推進する立場にある私たちの責務であると考えます。サイエンスを基盤とした母乳育児指導はいわば幹であり、これを基盤にしてそれぞれの母子がおかれた状況に配慮しながら柔軟に対応していくことができこそ母乳育児推進のエキスパートとなれると思います。このような視点で学術集会のプログラムを企画いたしました。

一般の方々はマスコミ報道を通して early skin to skin contact に対する誤解を持ち、また医療者の中でも様々な混乱が生じています。そこで学術集会開催当日の教育委員会主催の勉強会には early skin to skin contact を取り上げました。

学術集会では母乳育児のサイエンスを中心に、田中実教授（日本獣医生命科学大学）の特別講演や、わが国でご活躍の研究者による最新の母乳研究に関するパネルディスカッション、西田俊彦先生による基本的な医学統計のお話を企画いたしました。今後、より質の高い研究の遂行のみならず、適切な母乳育児指導のためには医学統計の基本的ノウハウを知っておくことが必要です。さらに、わが国の母乳育児に関する教育の現状や将来像を考え提言することを目的にシンポジウム「医療者のための母乳育児教育の在り方を考える」を企画いたしました。会員の方々から多くのご発言いただきプロダクツをまとめたいと考えております。

二つ目の特別講演は、昭和大学病院院内学級“さいかち学級”で病児の教育に携わっている副島賢和教諭による「赤鼻先生奮闘記」です。副島先生は、NHK「プロフェッショナル・仕事の流儀」でも取り上げられておりますので

存知の方も多いかと思います。彼の子どもたちに対する姿勢は必ずや私たちに多くのことを教えてくれるものと思います。

ささやかではありますが、学術集会第1日目の夜に昭和大学病院入院棟17階「タワーレストラン昭和」にて会員懇親会を行います。周辺には高層ビルがないため、東京の夜景が一望できるばかりか、東京タワーとスカイツリーが並列でご覧になれますので、学術集会で疲れた心身をリフレッシュできることと思います。

最後になりましたが、昭和大学小児科・総合周産期母子医療センターのスタッフ一同、会員の皆様と学術集会でお目にかかれることを楽しみにしております。多くの会員の方々のご出席をいただき、活発な討論を経て実りある学術集会になることを心より願っております。

目 次 — Index —

| | |
|-----------------------|----|
| 第 27 回母乳哺育学会・学術集会のご案内 | 1 |
| 交通と会場のご案内 | 2 |
| 学術集会参加者の皆様へ | 3 |
| 演者・座長の方へのご案内 | 4 |
| 日程表 | 6 |
| プログラム | 7 |
| 会長講演、特別講演、教育講演 | 9 |
| シンポジウム | 19 |
| パネルディスカッション | 29 |
| 教育委員会主催勉強会 | 39 |
| ランチョンセミナー、モーニングセミナー | 49 |
| 一般演題 | 59 |

第 27 回日本母乳哺育学会・学術集会のご案内

テーマ 「サイエンスを基盤とした母乳育児の展開をめざして」

会 長 板橋 家頭夫
(昭和大学医学部 小児科学講座 主任教授)

会 期 平成 24 年 9 月 8 日 (土) ～ 9 日 (日)

会 場 昭和大学旗の台キャンパス内「上條講堂」
〒 142-8666 品川区旗の台 1-5-8

理事会 平成 24 年 9 月 8 日 (土) 12:00 ～ 12:50
昭和大学 2 号館 3 階 第 1 講義室

総 会 平成 24 年 9 月 8 日 (土) 17:35 ～ 18:00
昭和大学上條講堂 (学術集会会場)

懇親会 平成 24 年 9 月 8 日 (土) 18:20 ～ 20:00
昭和大学病院入院棟 17 階「タワーレストラン昭和」

第 27 回日本母乳哺育学会・学術集会 事務局

〒 142-8666 品川区旗の台 1-5-8 昭和大学医学部小児科学講座

TEL: 03-3784-8677 FAX: 03-3784-8362

URL: <http://bonyu27.umin.jp/>

日程表

会場：昭和大学 上條講堂

| | 【1日目】 9/8 (土) | 【2日目】 9/9 (日) |
|-------|--|--|
| 8:00 | | 8:00～8:50 モーニングセミナー エビデンスに基づく母乳育児支援—シンフォニーのダブルポンプの有用性と家庭でのスイングの活用— 演者：水野 克己 共催：メデラ株式会社 |
| 9:00 | 8:55～ 開会の辞 9:00～11:45 教育委員会主催勉強会 early skin to skin contact —誤解と混乱— 座長：堀内 勁、石井 廣重 演者：堀内 勁 久保 隆彦 大木 茂 山田 恒世 | 9:00～11:50 シンポジウム 医療者のための母乳育児教育のあり方を考える 座長：井村 真澄、水野 克己 演者：荒堀 仁美 川崎佳代子 丸山 憲一 西村みどり |
| 10:00 | | |
| 11:00 | | |
| 12:00 | 12:00～12:50 ランチョンセミナー I 母乳育児支援 演者：滝 元宏、宮田 理恵 座長：大木 茂 共催：アポットジャパン株式会社 | 12:00～12:50 ランチョンセミナー II SGA (small for gestational age) 児の成長 演者：板橋家頭夫 座長：田中 敏章 共催：ノボ ノルディスクファーマ株式会社 |
| 13:00 | 13:00～13:30 会長講演 HTLV-1 母子感染予防戦略立案に向けたコホート研究 演者：板橋家頭夫 座長：川崎佳代子 | 13:00～14:00 教育講演 母乳研究の取り組み方 エビデンスを求めて 演者：西田 俊彦 座長：井出 由美 |
| 14:00 | 13:30～14:10 特別講演 I 母と子をつなぐプロラクチン 演者：田中 実 座長：牛島 廣治 | 14:00～15:03 一般演題・セッション 1 母乳育児の基礎研究 座長：滝 元宏 |
| 15:00 | 14:25～16:35 パネルディスカッション 母乳研究最前線 座長：戸谷 誠之 演者：神野 慎治 和泉 裕久 和田 友香 中野 有也 | 15:03～16:06 一般演題・セッション 2 母乳育児支援 座長：黒川 賀重 |
| 16:00 | | 16:06～17:00 一般演題・セッション 3 早産児に対する母乳育児 座長：菊池 新 |
| 17:00 | 16:45～17:35 特別講演 II こころの音が言葉になるとき ～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～ 演者：副島 賢和 座長：板橋家頭夫 | 17:00～17:10 閉会の辞 |
| 18:00 | 17:35～18:00 日本母乳哺育学会総会 | |
| | 18:20～20:00 会員懇親会 昭和大学病院入院棟 17F タワーレストラン昭和 | |

プログラム

1日目：9月8日（土曜）

9:00 - 11:45 教育委員会主催勉強会

「early skin to skin contact - 誤解と混乱 -」

座長：堀内 勁（聖マリアンナ医科大学 名誉教授）

石井 廣重（石井第一産科婦人科クリニック）

演者：堀内 勁（聖マリアンナ医科大学 名誉教授）

「Early skin to skin contact の意義」

演者：久保 隆彦（国立成育医療研究センター 周産期センター産科）

「全国分娩施設における STS の現状」

演者：大木 茂（聖隷浜松病院総合周産期母子医療センター新生児科）

「新生児の急変とカンガルーケア」

演者：山田 恒世（石井第一産科婦人科クリニック）

「一時施設における early skin to skin contact の実際」

成熟児の出産直後のカンガルーケアー 25 年を振り返る

12:00 - 12:50 ランチョンセミナー I 「母乳育児支援」

共催：アボット ジャパン株式会社

座長：大木 茂（聖隷浜松病院総合周産期母子医療センター新生児科）

演者：滝 元宏（昭和大学医学部小児科学講座）

「乳児検診の中で母乳育児支援」

演者：宮田 理恵（昭和大学病院 NICU）

「産前・産後の母親のメンタルヘルス

— 栄養方法による母親の精神状態の違い —」

13:00 - 13:30 会長講演 「HTLV-1 母子感染予防戦略立案に向けたコホート研究」

座長：川崎佳代子（佐久大学看護学部、別科助産専攻）

演者：板橋家頭夫（昭和大学医学部小児科学講座）

13:30 - 14:10 特別講演 I 「母と子をつなぐプロラクチン」

座長：牛島 廣治（日本大学医学部病態病理学系微生物学分野）

演者：田中 実（日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究所）

14:25 - 16:35 パネルディスカッション 「母乳研究最前線」

座長：戸谷 誠之（昭和女子大学生生活機構学研究所）

演者：神野 慎治（株式会社明治 研究本部食機能科学研究所）

「母乳の組成と乳児の発育」

演者：和泉 裕久（森永乳業株式会社 栄養科学研究所）

「母乳育児による母子間の機能伝達」

演者：和田 友香（国立成育医療研究センター周産期センター
新生児科）

「母乳育児が結ぶ母と子の絆」

演者：中野 有也（昭和大学医学部小児科学講座）

「母乳育児と DOHaD」

16:45 - 17:35 特別講演 II 「こころの聲が言葉になるとき

～院内学級の子もたちが教えてくれた大切なこと～」

座長：板橋家頭夫（昭和大学医学部小児科学講座）

演者：副島 賢和（品川区立清水台小学校、昭和大学病院内
さいかち学級担任）

17:35 - 18:00 日本母乳哺育学会総会

18:20 - 20:00 会員懇親会 昭和大学病院入院棟 17 階
「タワーレストラン昭和」参加費無料

2 日目：9 月 9 日（日曜）

- 8:00 - 8:50 モーニングセミナー
「エビデンスに基づく母乳育児支援
ーシンフォニーのダブルポンプの有用性と家庭でのシングの活用ー」
共 催：メデラ株式会社
演 者：水野 克己（昭和大学医学部小児科学講座）
- 9:00 - 11:50 シンポジウム 「医療者のための母乳育児教育のあり方を考える」
座 長：井村 真澄（日本赤十字看護大学大学院 国際保健助産学）
水野 克己（昭和大学医学部小児科学講座）
演 者：荒堀 仁美（大阪大学大学院医学系研究科 内科系臨床医学
専攻情報統合医学小児科学）
「医学生に対する教育」
演 者：川崎佳代子（佐久大学）
「看護学生・助産学生に対する母乳育児教育」
演 者：丸山 憲一（群馬県立小児医療センター新生児科）
「NICU スタッフの教育」
演 者：西村みどり（Stanford University School of Medicine,
家庭医 /IBCLC）
「医学生、研修医の母乳育児教育 米国での例：スタンフォード大学」
- 12:00 - 12:50 ランチオンセミナー II 「SGA (small for gestational age) 児の成長」
共 催：ノボ ノルディスクファーマ株式会社
座 長：田中 敏章（田中成長クリニック）
演 者：板橋家頭夫（昭和大学医学部小児科学講座）
- 13:00 - 14:00 教育講演 「母乳研究の取り組み方 エビデンスを求めて」
座 長：井出 由美（昭和大学病院小児医療センター）
演 者：西田 俊彦（東京女子医科大学母子総合医療センター
周産期研究事業支援室）
- 14:00 - 17:00 一般演題
セッション 1：母乳育児の基礎研究 座 長：滝 元宏（昭和大学医学部小児科
学講座）
セッション 2：母乳育児支援 座 長：黒川 賀重（黒川産婦人科）
セッション 3：早産児に対する母乳育児 座 長：菊池 新（高槻病院 総合周産期
母子医療センター）

一般演題・セッション1（母乳育児の基礎研究）9月9日（日）14：00～15：03

座長：滝 元宏

1-1) 母乳育児支援に関する教科書分析

—基礎看護教育における母性看護学に焦点をあてて—

湧谷 桐子

1-2) 低温殺菌機能付哺乳瓶保温器の基礎的研究～温度変化の検討～

初野 美智

1-3) 低温殺菌による母乳中サイトカインの影響

水野 克己

1-4) 母乳中のプロラクチン濃度と母体血液中プロラクチン濃度の比較解析

佐野 葉子

1-5) 母親のストレスと母乳成分との関係

尾筋 淑子

1-6) 母乳哺育推進を阻害している要因に関する研究

1. 産褥期母親のストレスと唾液中アミラーゼ活性値との関係

坂本 保子

1-7) 授乳中の月経が乳汁成分と、児の哺乳行動に与える影響について

大谷 恵

一般演題・セッション2（母乳育児支援）9月9日（日）15：03～16：06

座長：黒川 賀重

奨励賞

2-1) 母乳育児満足度の関連要因：30分以上の早期接触

本郷 寛子

2-2) “お父さんの skin to skin contact”による父性を育む試み

多賀 千之

2-3) 当院における母乳率による育児支援の評価

平松 裕美子

2-4) 産後 1 ヶ月の母親に見る授乳行動とその影響要因に関する検討

臼井 淳美

2-5) 1 か月母乳率向上への取り組み—退院後 1 週間の電話サポートを試みて—

柳村 直子

2-6) 母乳哺育ハイリスク症例（早産児、低出生体重児、人工乳補足児）

北川 博之

2-7) 母乳栄養児の発育と厚生労働省乳幼児身体発育調査及び WHO の発育標準値との比較

田中 ひとみ

一般演題・セッション 3（早産児に対する母乳栄養児） 9 月 9 日（日） 16:06~17:00

3-1) 妊娠 22 週に双子を出産したお母さんの母乳量～出産から産後 211 日までの調査～

鎌田 雅子

3-2) 在胎 22 週、532g で出生した赤ちゃんの直接授乳～NCU で行った回数・哺乳量の調査～

鎌田 雅子

奨励賞

3-3) 早産児における栄養法とマグネシウムイオンの関係

大川 夏紀

3-4) 極低出生体重児における栄養法がリボ蛋白プロファイルに与える影響

菅沼 広樹

3-5) 極低出生体重児における NICU 入院中の母乳の割合が修正 1 歳半、3 歳の発達に与える影響

滝 元宏

3-6) 妊娠 29 週で体重差のある双子を出産した母親の母乳量の推移と、NICU における乳児の直接授乳の実態および援助の考察

鎌田 雅子